

あの夏の絵

作・演出=福山啓子

こんなにも知らなかった
ということを知った。



撮影：宿谷誠



あらすじ

広島市にある私立海陵学園高等部。美術部員の恵は祖父母が入市被爆をしている被爆三世。顧問の岡田が持ち込んだ「被爆証言を聞いて絵に描く」取り組みに、迷いながらも参加することを決める。東京から引っ越してきた同じ美術部員の奈々は友達と遊ぶよりも絵を描くことが大好きで、漫研と兼部している篤人が気に入らない。岡田の提案で被爆証言は3人で聞くことになり、証言者・白井の話を聞いて心を突き動かされる3人だが、ある日奈々が学校に来なくなって…。

広島市立基町高校で2007年から取り組んでいる広島平和記念資料館主催の「次世代と描く原爆の絵」プロジェクトの実践をもとに舞台化。被爆者が見たものを忠実に再現しようとする高校生のひたむきな姿はメディアでも注目され、ドキュメンタリー放送やNHK BSプレミアム「プレミアムステージ」でも放送されました。3人の高校生を中心に、葛藤しながら絵と向き合い、互いにぶつかり合いながら友情を育む姿を生き生きと描いています。ようやく重い口を開いた被爆者の思いも丁寧に描いており、被爆体験の継承が益々重要となっている今日、幅広い世代の皆様にご見てほしい作品です。

美術=石井強司 照明=河崎浩 音楽=堀沢広幸 音響効果=石井隆 衣裳=宮岡増枝
方言指導=蒔田祐子 演出助手=清原達之 舞台監督=松橋秀幸 製作=広瀬公乃

感想

- 「記憶」をつなぐという人間だけが出来るのがいかに難しいことかということを感じました。高校生の創造活動に未来が見えてきたようです。(大人)
- 「知らなかったということを知る」とてもいい機会でした。今にまだ続いている原爆の傷を今日感じました。(大人)
- 特に印象に残っているところは皆が戦争の話を聞いて、「怖くないの?」と聞かれて「怖いけど、それ以上に描きたい。絵に残したい」と言ったところです。知らないことほど怖いものはないと思うので知らないことは自分で調べて、また詳しい人に聞いて自分の知識を深めていきたいと思いました。(高校生)

